



歌子お歌不お歌之事

一 知歌抄よ云歌と必りてはうとてさざとてあさく法とてはな
 べしとていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 かなとていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 又物とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 のうとていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 ども抑とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 まこととていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 かしとていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 く古事とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 る也とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 あらうとていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 一あるとていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と
 とうとていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌とていふ歌と

め三

立春

らんけ、お花ふお花のす、并子歌乃、せの知縁後たを
 大略次よきこと
 春の川日とて言ふは物さく物まつてのどろみか
 ららしてちかれ一せむもあつしく物さくあつて
 てもの信ももはあつてあつてのどろみ松竹乃あま
 のさつてあつて世といひ人といふたつてお花と
 さつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 のさつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 かたあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 さつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 よせ乃初、たのしむはあつてあつてあつてあつて
 づしてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 かさ初乃あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 十年といふはあつてあつてあつてあつてあつてあつて

年の内

年の内、あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 いひ冬乃月、あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 又あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 よらつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

先月

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

早春

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

震

介初也一と云々、其乃初也、此乃初也、其乃初也、
と云々、又一と云々、其乃初也、此乃初也、其乃初也、
つら目、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、
その初也、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、
もの初也、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、
んかおお、

雷

一法永二年、其乃初也、此乃初也、其乃初也、
あ、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、
これの初也、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、
其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
乃初也、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、
其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
よ、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
よ、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、

子目

一八雲抄云、其乃初也、此乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、
い、其乃初也、此乃初也、其乃初也、其乃初也、其乃初也、

砂氷

氷解

梅

下とくろむくはつなとこ

消流さつろとよしとこ

よせの菊とよらめつれかくとめなとこ

とろく氷とよしとこ 解の美水よお解

おほひとあまのありぬきとてハ 梅の花と せとれく吹か

ぬもかゆいしくもあゆひまよる神子白ひとろくとと

りの行路ゆらよらせハ 行路梅 ぶかてよとろくといひり方もこ

まれてうつろくも又ハゆきぬ返松乃松よめろーゆり

さふともいふ雪とむむひてハ 雪中梅 ありあまよと梅よ

久考らうられかともん又お乃のハ雪よまよるゆきともあり

右派の梅ハ 簷梅を梅き梅 ねりろく梅乃白ひと侍人の神の

みまろひ意吹つてぬみハ枕白ひ戎ハ梅咲比ハ友とまりこ

ぬ人とうくと又あひの外木とてハ梅乃ま枝やとつん

とも流り水をハ あま梅梅水 下りあといわ乃くとも

とあー雪の水もくゆいひ落梅かろハあめ水ま

柳

砂とよとひ喜風とうつむろーといふ梅梅ハやこあや

かーとも梅梅のそれともいぬたどお恋

よせ乃菊かほろくを神のうろくが咲ひらくかこ枝

とらえいらかこ梅雪とてよふお梅雪風ハあ

雪乃下より候神よまよる白ひなとこ

糸よとて髪よとてろく雪のとき吹くるぬものとうち

かびく柳乃いとゆらうなるんといひくハ方梅よん

ひまびいろあまー梅歌もくろくあり先は路とよ

びとろ歌かすハ 路梅梅路梅 玉のの乃とよりまよる

とまよりてとろくーといひの乃やろり乃まねまび

とてかこ梅らちー糸れともい水をもよまハ 池柳 岸柳

れを柳 梅 ぬれてゆと梅ともい水産まろく歌さふなび

くとも波乃あやま糸引とてとも川をい柳なまふい

とても梅さーをてながと目くしつとともい又梅

み折とてとてハ梅の糸りとてくハ産の玉よ糸ま

梅雪抄

くまもふりて居候とせば、庄持門仲ふらふら
なまね小難為る所乃枝の志ころぬ大云く其外志ある
なまねればなまねとまねくとも志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
めれ志よらうて一盤母とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
くまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と

草

早蕨

野

かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と
かきつばためがらひ採りてくまもふらるともふむく志とぬよらうせては志の志と

お返しそ外舌の乃具ある所と云くしひらぐを
よせの初と云れつづげれやぐ花の陰影と分るやと
らおひれて也

雲暎秋夕とて四季の歌をい解す夫のれ歌入たるよ
ていふかゆうと云ふ人懐乃素氣のえん子歌りし
んどうさわれくさひらぐと云ふ一或る歌る亦素氣と
なから或るものより明る乃山の移とて素氣乃
素氣とておひらぐと云ふ一やとていひて解りし
歌一亦らむじがおひらぐ秋夕とて乃やうと云ひし
かどい夫よお返し又りらくの歌ハ歌乃素氣とて下
よわつていふと云ふと云ふ素氣秋夕ハ二返と云えぬ
る一くくはと云お返しされば六十四音合は素氣と歌
いせよはと云と云ふおひらぐと云ふ乃乃雨の
ちかた云素氣と云くいしと云ふ素氣と云ひし歌子素氣とい

ていふ可也しと云ふ是は結句よ素氣と二返と云く
歌一と云し
判云右方人の命の念入り一不御を歌とて文字此
あつと云たりとP斗おれは素氣とてハなと云いしと云ん
之何て不意子細と云ふと云しと云ふは右方人乃
歌よ素氣とてと云ふは右に念入りと云ふと云ふ
ふ意子細と云り扱つて解るは右に念入りと云ふ
雲ハやうと云ふと云ひておひらぐと云ふと云ふ
よせの初ハ定りしと云ふと云ふは右に念入りと云ふ
と云ふハ猶と云ふと云ふと云ふは右に念入りと云ふ
と云ふハ素氣又ハ素氣乃と云ふは右に念入りと云ふ
くもくもといふと云ふと云ふは右に念入りと云ふ
る一と云ふと云ふといふと云ふと云ふは右に念入りと云ふ
意ハハあつと云ふ一扱つておひらぐ乃歌ハ皆その
向ひては素氣と云ひしと云ふと云ふと云ふは右に念入りと云ふ

物尋は持成

藤花とてはしるしうりうりうりうりうり三層秘法近者風神
をわ乃叔物等まもりり又侍をさひやまひりむなむ
眼前の事氣なつねに浴あーいこいも目前の凡事を
うづいしくさひくくさひさし他ーそれも花を干そを
そとよむよとのさかぬーとづりうりうりしとあーな
これハ花のちもさひやつらうもも藤花とよむし
くさーくさむ乃散一そとさかどよむむむむむのぬ
あつらひこれさゆ乃とー法か拙よりうりうり
とよむむおまのまもととー法をあてらうりんそと
かかさし合もあつらうるふとさひささし法はゆん
乃うさささーとさひさささささささささささささ
つひささささささささささささささささささささ
いんらめまをんれおさへ一本の下母家法と口とれく
さひ散とーささささささささささささささささ
人よーいさささささささささささささささささささ

歌よらうととのく其とりむさあうづーととんバ
侍をハさのあもりかむ格どかめく暗を自散とーとさ
乃由そとさ散あううてさぬさ乃をとなぐさむなとあ
ー乃花とよまはまが物とに知かどー自雪と散とさ
とらからるる報まららのゆりあさぬお路まととりて
か入りあいつらいつぬ雲もれくあすもあらぬゆんを
つくととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととととと
むらんとりか本あさいつらいつらいつらいつらいつ
てらうん又さあふ本のかまらいつらいつらいつらいつ
かさささささささささささささささささささささ
どもむよらうり人よまらむらむらむらむらむらむら
ら人もとらねば花乃為さへ散とさささささささささ
れなら人もささささささささささささささささささ
といくら人のくさささささささささささささささ

物部

色を思ふに成るるはあはれとてはば彼乃むさ白くても
 渡川志氣をさぐるめては渡の自波も落そくたさるる
 海も波の漕り舟も碇乃松まんとするは舟の極端なれ
 バ波汲海人の神もさやういれどなりは渡花ハ雲よりて
 うれしあやちや一又ハ云ふは語よりたてかきかするる
 んといひた乃花のころあふあふとては乃西へ運れるん
 降りててたハ風とてしんた乃とかれと流るる
 さ神とハ渡花乃歌のあハんたあるんさ
 せ乃初かなを嘆けらたが—いよおかきとておとこ
 一ハハ舟乃がハ舟とて乃らあはせとてりて二舟のな
 うハ舟又とておとこさるとりて又とて—はようさともある
 秋ハ舟ハ舟とておとこさるるさるるもハハ舟ハ舟
 うてとのう食物はれハ舟よりお母南乃あててか
 くあはれまやうく—あはれはれ又おとこさるる—呼丁紙
 一ハハ舟とておとこさるるさるるさるるさるる

呼丁

乃乎し又ハ舟とておとこさるるさるるさるるさるる
 らんとておとこさるる秋とておとこさるる或ハ舟とて
 舟ハ舟とておとこさるるハ舟ハ舟とておとこさるる
 んとておとこさるるといひ又ハ舟乃花よりハ舟乃花や
 せらるるんとておとこさるるとは江舟のあはれ
 たり
 うせ乃初又とて秋花乃花とておとこさるる—花とておとこさるる
 のう歌情からしての喜おとこさるるさるるさるるさるる
 舟乃花よりおとこさるるさるるさるるさるるさるる
 かなたおとこさるる
 子とておとこさるるとおとこさるるとおとこさるるとおとこさるると
 とおとこさるるとおとこさるるとおとこさるるとおとこさるると
 舟乃花よりおとこさるるとおとこさるるとおとこさるるとおとこさるると
 舟乃花よりおとこさるるとおとこさるるとおとこさるるとおとこさるると
 おとこさるるとおとこさるるとおとこさるるとおとこさるると
 とおとこさるるとおとこさるるとおとこさるるとおとこさるると

雲雀

三月三日
菟曲水

三月三日乃言大々桃乃言とあり又曲水とあり
曲水とハ桃苑とあり川へ又ハ屋をてちやあどなび
て其こといふかきあてあよとありこづらとかがてそ
のさざらなるれくろちよ詩又かこめても流を練し
けくろちよとととりて河とのそ又流へたかて
流せらりのハさうとすとすとりりをまうてん
れりされハ曲水乃言ハはちあめぐるむ乃言とあり
ひながれまうふむ乃言うく人乃あととつとあり其
外妻れさうと桃乃言とつとありさうと又桃乃
言とつとありとせよがらてみ桃とつとあり乃言に
あまもとあり其外桃苑とてなうり一ねと又折
とつとありさうとあり

煙

乃言乃初やういのくよ妻乃言む乃言と三月乃
言らとせよがらとありけりつとあり
乃言ハ妻の田なりあり川は流はに其外水直流り

草堂

たくれかどあちれもつとありとつとあり又さうとあり
じもおせや或は落葉は吹中とありせあひつとあり
とありくつとあり乃言あまもとありと又ハ妻とあり
一とありありとつとあり妻乃言の物也
乃言乃初とつとありあまもとあり乃言乃言とあり
かろとありあまもとあり乃言乃言とあり
つとありとありありのどろかり妻のけつとあり
ちつとありとあり又ひつとありとあり或は妻とあり
ねれつとありと又ハ妻のうとありとありとあり
どおせとあり又あまもとあり乃言乃言のつとあり
とありとありとありとありとありとありとあり
もよひ又とありつとありとありとありとあり
ハ皆女とありとありとありとありとありとあり
とあり又とありとありとありとありとありとあり
暖物とありとありとありとありとありとありとあり

西行集

十一

よあり白波と煙とをくわくわく又宵一朧よありの夜はと
りつばまをくわくわく友のあはなり八九の夜はと
たもつ並んて花の咲かすひらりん又はあつちをひ
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
くわくわく又あつちをひらりん又はあつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
たつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん

若妻

よせの初から雲をさかびく白あつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
おーちと若妻乃名あつちをひらりん又はあつちをひらりん
のちあつちをひらりん又はあつちをひらりん
のちあつちをひらりん又はあつちをひらりん

妙妻

三舟令

名あつちをひらりん又はあつちをひらりん
かどつちをひらりん又はあつちをひらりん
よせの初から雲をさかびく白あつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
おーちと若妻乃名あつちをひらりん又はあつちをひらりん
のちあつちをひらりん又はあつちをひらりん

若妻よけれ

三舟海りのをくわくわく若妻乃名あつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
歌ええ若妻のやうなひらりん又はあつちをひらりん
てはあつちをひらりん又はあつちをひらりん

若比

よせの初から雲をさかびく白あつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
よせの初から雲をさかびく白あつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん
よせの初から雲をさかびく白あつちをひらりん
とつたあつちをひらりん又はあつちをひらりん

善天

善天象

善地候

善動物

善植物

善の大元乃象と云々一いふものなるか心おき

善の初めと云々一其の善なるか心おき

善天候と云々一其の善なるか心おき

善地候と云々一其の善なるか心おき

善動物と云々一其の善なるか心おき

善植物と云々一其の善なるか心おき

動物といふ生類一善雑雲雀等善動物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

善雑物

善色

善香

善臭

善祝

善心

善戒

雑物といふ夜帯車枕鏡匣其外なやてと器故乃

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

雑物の善なるか心おき

美所

吉川

○夏

夏

美衣

美の神乃神也

美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。

美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。

美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。

美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。美の神乃神也。

新樹

新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。新樹の歌。

新樹の歌

お花

のきよつれても葉をひびききよのこもりなりよし
といひた葉もあけしもうのきよもともやのほのこ
志陰志がりぬれがむの面もくくたまり高の目敷も
うとくおの親もゆりこぬかど皆新樹の葉もこ
よせの初候もどり清もどりおがりゆきがりあふお
おがらこどり清もどりよのこははまのこどり
善乃の湯子もお友の婚子もさる歌し善乃おむ
妻のこよといひ友乃お花の善乃おれて嘆こもいひ又
青葉の梢をよこ合也又ハ遊揚といひがまけおむこ志
がこれがくれおれれりこがりおをこて善乃おむ
よこりてあけしこ無事らんをいひ我のさる志が
が中をこぬてらん或なりあまておおむらつこれほ
善れこふとまねるるともよめり
よせの初青葉おと志がこらんそはははれいおむ
きて白く候おのこさなりこ

餘花

卯花

お花といふよ日一

卯花乃らどりりり望物と卯花ハ白き物なれ大
月おまがく雪よこなせりあもさ中ハはつとくせり
布おまがく山おはりどおまらう卯花お花といふ
卯花と月おまがくうとくまこと乃月おあつとく
くくといふ卯花のぬのを卯花咲卯花卯月の
花かども清りつゆお乃玉川卯花の名をさるは
よせの初お花おまがくこのこつとくはまがくふ
布おまがく山おは白お玉川のこせよ
お花ハお花お花のこおれの白く下とくおと氏人おこれ

夢

お花がくろくこて又お花をよめりこくろくこて夢ハ
お花のこともめり又ハお花の社もよめりこくろく
もお花し徳也夢ともめり夢ハ二葉おらりのなれ
くろくそ古夢おも年おあれども二葉おらんとて淡
てあつひろくといふ夢と桂とくろくろくたよ

りり又目録おひつくとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
て目録のまじりておひつくとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とてあつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
れつとやあつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
まつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ

郭云

定有申有古有よつとら吾内申有古有ハこのつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ

夫若孫もせてつとら吾内申有古有ハこのつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
おひつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ
とせつとやいひとらむハそのつとハ夢ハ根目録のあつとやいひ

福

鳴りうるり教考鳴かぐれのおま咲の声一と志
鳴とぞくけおくらとさ乃夢有ゆ乃夢我々の一と初考
かみらふくぬれおのほな花立むよ鳴とそのお
かか鳴世の村飯への
まはまことこのくちをうすれり福乃まいつく今れお
ことくひいそと志のぶらとらりりあし乃ととま
花乃とこのこがりまてとそがやりかよとては
とりまつやあま王命みことなれがととくとやとよ
くもあひたり福とこりおあてゆとらびて啼なげ舞世
ふとやととこはとせまようれさせかりありら
と物んさてまむまむいとりつら考教とらととよ
りりこつ福の神まむいとつてまひ一乃及
の名抄とまとい又むの人の神乃ままがへ物吹
はまおのつらとてお懸く朝はまはとらり
せしむとらとらふまふまつとつとつとら花と後り

早苗

五君のはあひの物く又花乃くく咲をさあらの母に
まぐりまのふれらると今あのはよとてとらあもあり
うせ乃初ま存はびいとあうびりまればぬらあむ白
いころ新社のら咲いら右のつら乃神あり早苗と遊の稲うり
むららる里
五君乃はま川がら田ようんよと夜にお懸く早苗ハ
い門ととてたがくかりてハありらハ早苗れとらと
まもいそとてこれなとらり又ハ早苗ぬれついでと
ともなくもたればいそととこれとら乃目もくれ
らん又ハ世ゆらあま乃出らとあまぬれハ民の志と
とまもゆとかく耕くま佐よとらあらんとどの田の西也
ありて田ととらのさ乃ハかうとら考とつひ又ハ田子
乃のせそもぬれてあどとらととかうじしむら乃あど
つあむらハともくもあくまうい穂しとらとてあ
らりハとととらととらとらとつとらととらととら

乃月と合はるる中とちんそそりちた乃はなれど
ねよせぬ程はあつらふとせしてありしりとの
とらじあはらう人のまじりもあつてよりく鹿とあ
れと又うり人の鹿よのこも入て殺せ乃つこも
ぬとらうといひ世あとののひらと殺じとも後の世
乃やしらといふせんかといふとより又ハ者乃本
のち乃とり一の走とあはれ字よすがん或ハとり
とら程おく唯いふらうちの筆氣ともあり
ら世の知とりといひてはさくくわんちとて
鹿のしよとらうり人乃川とやとてさうなり
松川と川とらうりはれとらうりちのよ乃やと
とてハ松川ハ世を舟よのうて一人ハ持とて一人ハ
とてとて一人ハとらうりてとらうり魚乃とゆと
務をあつらふれバとのくもとてとて魚とて
務乃くいよとらうりハとて川とて川とての

待川

ちて川ト入てとてこれとていふとて又とて
のぢつとてとてとてのぢつとて又特川といふ
うらとて乃川とてとてとてとてとて又特
川乃ちハとてとてとてとてとてとてとて
多一或ハあやとてとてとてとてとてとて
うらとて乃川とてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
ひてとてとて川とてとて又特川も特川とて
とてとてとて後の世乃やとてとてとてと
よ世の初かを火とてとてとてとてとてと
乃川のぢつとてとてとてとてとてとてと
たやとてとてとてとてとてとてとてと
うやとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてと

故を火

か

世

夕歌

夕の初みりよきなほさるるに嘆ひく池の
夕のハ夕は嘆いやはしと嘆ひくさるるに嘆ひく池の
れの宿夕秀の光の中くと曲うよそあそくめかして淡
るハ係氏物終夕夕の光よ
ふちそあそくしそと夕あはれをてら夕夕を乃よ
ううてそあそくしそと夕あはれをてら夕夕を乃よ
光ありとに夕夕乃上あはれをてら夕夕を乃よ
いあうりありけい夕夕乃上あはれをてら夕夕を乃よ
夕の初みりよきなほさるるに嘆ひく池の
かのくさるる

夕三

夕の初みりよきなほさるるに嘆ひく池の
夕のハ夕は嘆いやはしと嘆ひくさるるに嘆ひく池の
れの宿夕秀の光の中くと曲うよそあそくめかして淡
るハ係氏物終夕夕の光よ
ふちそあそくしそと夕あはれをてら夕夕を乃よ
ううてそあそくしそと夕あはれをてら夕夕を乃よ
光ありとに夕夕乃上あはれをてら夕夕を乃よ
いあうりありけい夕夕乃上あはれをてら夕夕を乃よ
夕の初みりよきなほさるるに嘆ひく池の
かのくさるる

暮月

よせ乃初みりよきなほさるるに嘆ひく池の
夕のハ夕は嘆いやはしと嘆ひくさるるに嘆ひく池の
れの宿夕秀の光の中くと曲うよそあそくめかして淡
るハ係氏物終夕夕の光よ
ふちそあそくしそと夕あはれをてら夕夕を乃よ
ううてそあそくしそと夕あはれをてら夕夕を乃よ
光ありとに夕夕乃上あはれをてら夕夕を乃よ
いあうりありけい夕夕乃上あはれをてら夕夕を乃よ
夕の初みりよきなほさるるに嘆ひく池の
かのくさるる

夕の初みりよきなほさるるに嘆ひく池の

夏田

夏の田は半年苗より黍氣又かうけりてとどりて
とどろきおれとおれ

夏川

夏の水の流るは神又ハ河水と流びて細流と云ふ又ハ
物川乃神と云ふなり

夏木

夏よりあふ夏木立ハ黍氣おれ

夏草

夏草乃麻とも云ふ又ハ牛馬楯乃楯なりと云ふも夏の
虫とむとひてとびべ

夏鳥

夏鳥と云ふは六月時鳥と云ふれそハ鶉鶉と云ふや
の鶉の鳴は夏とむとびてとびべ一昔ひうらうらな
どの事とりしり多ハわ

夏衣

夏衣ハ夏の始なりハ夏衣の虫ともとびべ一昔このハ衣
ひと人の衣をとりあり又ハ夏衣と云ふも昔子細

夏具

夏といふは六月時鳥の鳴をとりありと云ふ又ハ弁ひ乃と
りたりと云ふ極の白いと神と云ふれ夏具と云ふは松陰
乃清水とむとひたりと云ふても夏乃あると云ふと流る

夏萩

夏萩と云ふは川も流るる世といひ氏乃戸も時をゆき
小さひいとも流るれくとりて一なりと云ふといひ又ハ
松萩乃と云ふは萩と云ふも又ハ萩をむらさき所
はと云ふなりと云ふ萩と云ふは萩と云ふなり

夏声

夏声ハ萩と云ふは萩と云ふは萩と云ふなりと云ふは萩
乃乃声なりと云ふは萩と云ふは萩と云ふなり

夏萩

八

